

○令和4年10月以降、入国制限の緩和により、訪日外国人旅行者数が回復傾向にあるが、アジアを中心に人気が高く北海道内でも回復の早い富良野、美瑛エリア等において、私有地への立ち入りや車道での写真撮影等、訪日外国人旅行者のマナー違反が、地域住民の生活環境を悪化させている

○当該事例は、今後、訪日外国人旅行者の回復が促進されるにつれ、北海道内の他エリアでも同様に起こりうる問題となることが予想される

○そのため、訪日外国人旅行者へのマナー啓発手法の検証や、マナー違反に対する意識調査を実施し、北海道全体で取り組めるオーバーツーリズム未然防止策の検討を行った

1. 来訪者による環境悪化事例と課題の調査

〈全道市町村アンケート調査〉

オーバーツーリズムに関する現状を把握するために、道内市町村・DMOを対象にアンケート調査を実施した

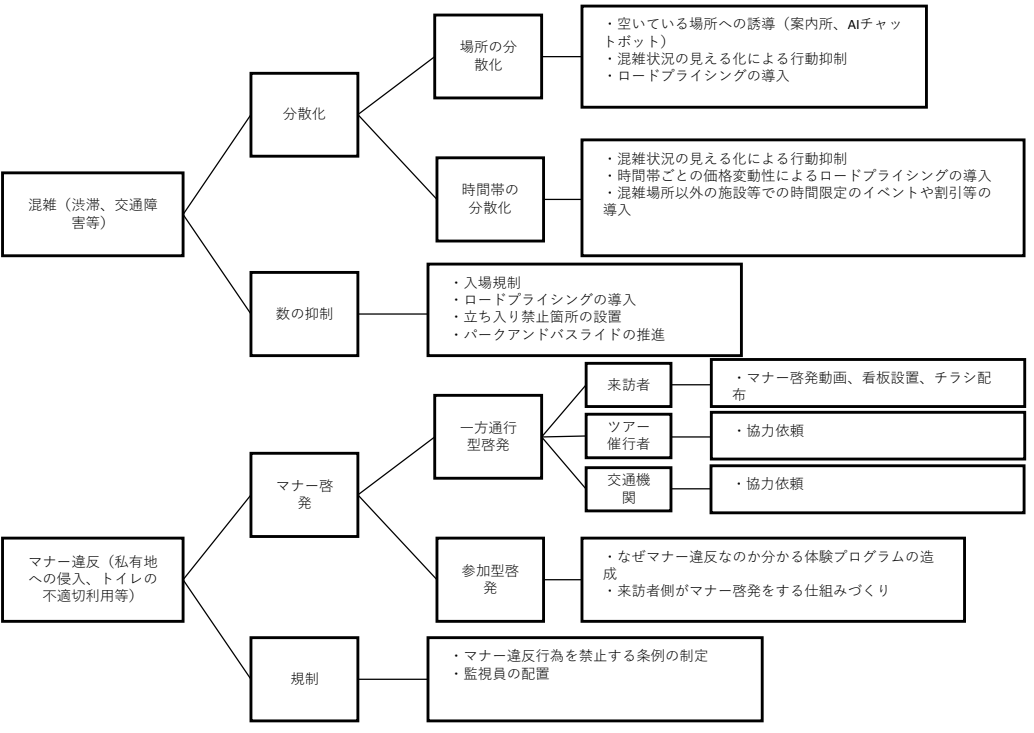
〈先進事例調査〉

オーバーツーリズム対策について、観光庁が取りまとめた事例や先行して対策を実施している京都市の事例の調査を実施した

- ・【観光庁】訪日外国人向けマナー啓発用看板、ステッカー、チラシ等先行事例リンク集
<https://www.mlit.go.jp/common/001350387.pdf>
- ・【京都市】における外国人観光客等へのマナー啓発の取組等
<https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000214071.html>

〈対策フロー図の作成〉

アンケートの事例を大きく分類すると「混雑」と「マナー違反」に分けられることから、それぞれ考えられる対策をフロー図にまとめた



2. 課題解決に向けた調査と検証

〈来訪者の意識調査とマナー啓発ルールの効果検証〉

左記のフロー図のうち、来訪者への効果的なマナー啓発手法を検討するため、インバウンドを対象に、マナー違反等に関する意識調査及びマナー啓発動画の効果検証を実施した

- 回答者数 317人
- 韓国、台湾の20代、30代が主な回答者
- 農地の無断立入が禁止されていることについては、7割以上が知っていたと回答し、動画についても一定程度効果が見られた
- 一方で、現地では無断で立入る人がいることから、「農地だと認識していない」「他の人が入っているのを見て入って良い場所だと勘違いしてしまう」等が農地進入の原因だと考えられる



〈マナー違反等の事例に対する適用できる法律の整理〉

農地進入等、マナー違反に収まらない事例もあることから、国際私法の専門家に依頼し、法的に取り得る対応策を整理した

- 【専門家「北海道大学大学院法学研究科 嶋拓哉教授」に執筆していただいた論文の概要】
- 民事的には、不法行為損害賠償請求（民法709条）の対象となり得るが、国外の人を相手にする性質上、訴訟コストが莫大になり、訴訟の目的は達成されない恐れがある
 - そのため、地域が任意に策定したルール（ソフト・ロー）による対策が合理的である
 - 対策にかかる費用は、来訪者に負担を求めるのが合理的であるが、代表的な観光新税である宿泊税を導入したとしても、被害を受ける地域と宿泊地が一致しているわけではない
 - 道内観光地を訪れるすべての観光客に対して、広く負担を課すといった方策を導入するのが適当である

3. 課題解決に向けた具体的な対応策の提案

〈課題解決に向けたワークショップ開催〉

上記2.の内容から、美瑛町の事例を取り上げ、実施できるより効果的な対策を考えるため、美瑛町観光協会や北海道、国内及び韓国の旅行会社等、幅広い関係者を集め、「ナッジ理論」を用いたワークショップを開催し、現地での対応策や関係者の連携策を検討した

- 【概要】
- 令和6年1月25日「美瑛町・四季の情報館」19名参加
 - 講師 北海道行動デザインチーム「HoBit」
 - ・参加メンバーで現地を視察し、現状を把握
 - ・講師による基礎講座で、「ナッジ理論」を学習
 - ・設定したペルソナに対して、行動変容するまでのプロセスマップを作成し、障害要因とモチベーション要因を分析
 - ・行動変容を促す介入策を検討した

